

Chromebookの適切な使用と破損防止対策の徹底について

Chromebookを文房具の一つとして有効に活用していく学習スタイルは、令和日本の教育の基本ベースである。適切に使用し、破損防止を主体的に心がけて生活する自律的な学習者となるよう働きかけていく必要がある。

1 学習に使うツールとして

Chromebookは学習のために玉野市から貸与されている器機であることを生徒に徹底しておかなければならない。そのためのルールは必ず守るように指導することは基本中の基本である。

ねっトレで徹底継続指導

- ・ルールの徹底(家庭でのWeb利用上のルール設定も依頼)
- ・Win Bardでの状況把握システム活用で抑止力効果を高める。
- ・クラウド学習の留意点を押さえる。
他者が映り込む写真や動画等のWeb掲載の危険性
個人情報に掲載されているが学習成果物の公開について
- ・Chromebookの設定の無断変更の禁止
- ・他者のアカウント利用の犯罪性についての徹底

教員が様々な禁止ルールを設定して遵守させることも否定しないが、自律した学習者として自分で主体的に適切な使い方をしていくよう指導すること。

また、「学プロ」組織を活用して、生徒同士がお互いに声を掛け合う機運を醸成することも重要である。

2 Chromebookの破損防止について

Chromebookの徹底活用を進める中で、端末を破損させる事例が激増しているという大きな課題があり、実効性のある取組が必要であることは否めない。

- ◆Chromebookは安価な機器であるため、繊細な取扱が必要である事を強く認識させる。
- ◆ICT機器の取扱についての汎用的な常識を定着させる必要がある。
- ◆Chromebookは貸与されたものであり、自分のものではなく、次の生徒に引き継がれるものであることを強く認識させる。
- ◆破損した場合の保険対応を含めた修理の流れを認識させる必要がある。(教職員の徹底した聞き取り等)

「ねっトレ」の指導の中で、継続的に働きかけを行っていくことが重要

こうした教育活動の推進には、教職員の強い意識からの適切な指導行動が重要である。

- ①端末破損時の対応の流れを理解した上で日々の指導支援に当たっている。
- ②生徒は端末を乱雑に扱うものとして意識して、絶えず指導をしている。
- ③授業時の取扱状況によっては、教員も責任を問われるものと意識しておく必要がある。
- ④そもそも教職員自身がChromebookは繊細なものであることを認識しておく必要がある。

よくある破損事例

- ①キーボードが外れる。(何かを挟んでしまう、乱暴に押す、しかし、原因不明が最も多い。)
- ②液晶画面が割れる。(落下させてしまう、何かの圧力を画面に与えてしまう。)

破損させないための取扱方法を考えさせる。

Chromebook機器の弱さを理解する

破損防止強化月間(5月、11月)

「学プロ」情報管理チームによる働きかけを検討し、生徒間で破損防止についての意識を高める取組を推進

毎月第一水曜日は破損点検の日

担任を中心に各学年団で点検作業を実施し、破損を早期発見、早期対応開始を行う。
点検作業に「学プロ」情報管理チームを活用することも検討する。